

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	35907
事業名	枝・葉・草リサイクル事業費					
評価担当課	所属名	環)環境事業部 施設管理課				
	課長名	犬伏 哲浩	担当者名	吉田 涼介	電話番号	211-2922
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	戦略ビジョン	<input type="radio"/> 対象	<input checked="" type="radio"/> 対象外	
事業の性質	<input checked="" type="radio"/> 経常経費	<input type="radio"/> 臨時的経費				
	<input type="radio"/> 内部管理	<input type="radio"/> 法定経費	<input type="radio"/> 指定管理			
事業内容	実施形態	<input type="radio"/> 直営	<input type="radio"/> 一部委託	<input checked="" type="radio"/> 全部委託	<input type="radio"/> 補助助成	<input type="radio"/> その他
	目的	短期	①②市域内一般家庭から発生する枝葉草を原料として堆肥を製造する。 ③堆肥の利活用を行う。			
		長期	①②市域内一般家庭から発生する枝・葉・草を原料として堆肥を製造し、市域内に還元することにより循環型リサイクルを推進する。			
	取組内容	①枝・葉・草堆肥化試験運用(施設管理課)を山本処理場(山本北地区)にて家庭より排出された枝・葉・草類を収集し、搬入物を分解発酵させて堆肥等として有効利用を図る。②「定山溪地域バイオスタウン構想」(ごみ減量推進課)定山溪地域から排出された枝・葉・草を同地域内で資源化し、バイオマスの地域内循環を図る。③枝・葉・草堆肥活用策を目的とし、市民に清掃事業に対する理解の向上を図る。				
実施結果	①堆肥に含まれるプラスチック袋等の選別精度を向上できたことから、外部利用を視野に入れ特殊肥料生産業者の届け出を行っており、生産した堆肥を試験的に市内農家で使用している。 ②定山溪地域等から排出された枝・葉・草を同地域内の処理施設で資源化し、生産した堆肥は、有機肥料として札幌市内及び市内近郊の農家で活用されている。 ③市民向けに枝・葉・草堆肥の無料配布を行っており、R3年度は約734トン配布した。					
事業実施における工夫点	①堆肥を発酵中の高温時にふるい機にかけることにより、排出時に使用されるビニール袋や紐等の選別精度を向上している。					
対象者	市民	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	廃棄物処理法					
他都市の状況	新潟市:平成20年6月の有料化と同時に「枝・葉・草」の分別収集を開始している。					

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費	169,065	194,929	180,480	201,393
うち特定財源	0	0	0	0
人工	1.0	0.0	0.0	1.0
人件費	7,200	0	0	7,200
計(事業費+人件費)	176,265	194,929	180,480	208,593
事業費の内訳	令和3年度決算	枝・葉・草リサイクル事業費 (施設管理課) 148,097千円 (循環型社会推進課) 32,383千円		
	令和4年度予算	枝・葉・草リサイクル事業費 (施設管理課) 175,593千円 (循環型社会推進課) 33,000千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	枝・葉・草処理量(t)山本処理場搬入分			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	18,400t	19,200t	17,969	18,100	
活動指標2	指標名	枝・葉・草処理量(t)定山溪施設への処理等委託分			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	1,500t	1,500t	1,468	1,500	
成果指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	市民がリサイクル可能な枝・葉・草として排出した物を全量受け入れた。内訳として定山溪の堆肥化施設へ家庭系枝・葉・草の年間計画は1,500トンに対し1,468トン搬入した。(定山溪はバイオマスタウン構想)その他市民が排出した枝・葉・草は、山本処理場山本北地区で計画量19,200トンに対し17,969トン受け入れた。受け入れを行った枝・葉・草はすべて適正に資源化を行った。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	事業費は市内の家庭から排出された枝・葉・草を全量受け入れ資源化するために必要な経費であり、これ以上の経費削減は事業の継続に支障をきたす。また、「定山溪地域バイオマスタウン構想」に基づいた取組として、枝・葉・草の収集運搬効率を考慮し、堆肥化施設がある南区全域のほか、隣接する地域の一部から収集した枝・葉・草を搬入している。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	資源化事業は委託により実施している。山本処理場山本北地区については受注業者を一般競争入札により決定し、定山溪の堆肥化施設については民間のノウハウを活用することで可能な限り効率的に事業を実施している。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	資源物である枝・葉・草堆肥の市域内還元として、R3年度は、市民、市内の農家や他部局に約2,000トンを提供しており、市民等のニーズに応えられているものとする。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映				
今後の改善点	定山溪の堆肥化施設については、安定的な処理が行えるよう必要な調整を行う。また、札幌市が生産している堆肥化物の品質向上と外部利用拡大の検討が必要である。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	平成26年度末に特殊肥料生産業者の届け出を実施しており、外部利用の検討を進めている。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	生産した堆肥を利用して市内農家での試用と市民向け配布を行った。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 堆肥の生産性の向上を目指すとともに地域における利用拡大を図る。			
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 枝・葉・草のリサイクルを推進するとともに循環型社会の形成に寄与するため、事業を継続実施する。		見直し効果額	0 千円